令和元年(行ウ)第275号、同第598号 環境影響評価書確定通知取消請求事件 原 告 鈴木陸郎 外47名 被 告 国

陳述書 (原告番号48番 武本匡弘)

## 1 プロダイバーとしての活動の開始

私は、1984年、28歳のときに神奈川県藤沢市にパパラギダイビングスクールを開業し、それ以来、プロダイバーとして活動しています。ダイバー歴は今年で42年目となります。また、現在はNPO法人気候危機対策ネットワークの代表も務めております。

パパラギダイビングスクールでは、江ノ島、真鶴、湯河原などの神奈川県の相 模湾の海、伊東市の伊豆海洋公園・富戸などの静岡県の相模湾周辺海域、さらに は、与那国島、西表島、石垣島、宮古島、渡嘉敷島などの沖縄県各地、グアム、 パラオ、ハワイ、東南アジア各地などで、ダイビングツアーを実施し、また、ダ イビングスクールを開催するなどして、海中観光を主たる業務としていました。

#### 2 海洋生態系の変化と NPO パパラギの設立

このダイビングキャリアの約40年間の間に海洋環境は劇的に変化しました。 最初の15年間は写真1のように生物多様性豊かな海が地球上の多くの場所で見ることができました。ところが、後半の25年間は胸が締め付けられる様な悲惨な状況が続いており、1998年頃から、写真2のようにサンゴが白くなるサンゴの白化が地球規模で起こるようになりました。白化したサンゴは写真3のように最後には瓦礫化して死に至ります。



写真1 マーシャル諸島のサンゴ礁の様子



写真2 マーシャル諸島のサンゴ礁の様子



写真3 瓦礫化したサンゴ礁

特に沖縄は壊滅的な状況です。写真4は8年前の石垣島の海、写真5は現在の 状況です。写真の比較からも分かると思いますが、9割以上のサンゴが死滅した といわれています。このように、サンゴ礁における生態系に深刻で大規模な衰退 が見られるようになりました。私は海洋生態系の変化を目の当たりにして、海と 自然保護に取り組む必要性を強く感じました。



写真4 石西礁湖(石垣島)のサンゴ礁(2013年)



写真5 石西礁湖(石垣島)の様子(2021年)

このような経緯があり、私は NPO パパラギ "海と自然の教室"を設立したのです。NPO パパラギ "海と自然の教室"では、シュノーケルを利用しての海の中の観察会、海岸生物観察会などを開催し、海をベースに、海洋生物との接し方、自然環境の楽しみ方を広めながら、自然に目を向けることを通して、自然と共存していくことの大切さを理解し、一人ひとりが、できることから実践していけるよう普及していく活動を行なっています。

#### 3 環境保全活動への注力

海洋生態系の衰退は止まりませんでした。サンゴ礁の白化は度々起こり、1990年代半ばまでのような美しいサンゴ礁と豊かな生き物の姿は見られなくなってしまいました。私は、このような現象には気候変動による海水温の上昇が密接に関係すると痛感しました。気象庁が公表している海水温分布のデータからも、日本近海をはじめ海水温が上昇していることが明らかになっています。

写真6は伊東の海の様子です。これは2019年3月、冬の海で撮影した写真ですが、なんと熱帯魚が泳いでいるのです。この10年間でこのような不気味な現象が各地で観測されるようになってしまいました。



写真6 伊東市富戸海岸の様子(2019年3月)

そこで、2015年、32年にわたって行ってきた、パパラギダイビングスクールの代表者から退き、環境保全活動に注力することとしました。現在は、「気候変動、海洋プラスチック問題」等に関する講演活動、セミナー開催、環境学校授業、環境NPO団体技術顧問等をし、藤沢駅前にて日本初のプラスチックフリーのショップ「エコストアパパラギ」を立ち上げました。

## 4 相模湾の藻場の現状

写真7は2012年に江の島付近で撮影したものです。相模湾の海底では、コンブ、カジメ、アラメなどといった海藻が生え、カジメ・アラメ場などといった藻場を形成していました。これらの海藻はアワビ、サザエ、ウニなどの餌植物となるほか、メジナなどの魚類によっても摂食されます。



写真7 相模湾・江の島付近の海底の藻場(2012年3月)

ところが、2020年に同じ場所で撮影した写真8からも明らかなように、近年では相模湾で磯枯れや磯焼けが広がって、一本も海藻がなくなり、砂漠のようになっている海域が目立つようになってきました。



写真8 相模湾・江の島付近の海底の藻場(2020年3月)

葉山でも同じ変化が起きており、写真9、2011年にはワカメ等が生い茂っていた場所は今では写真10のように白い岩肌が見えてしまっています。

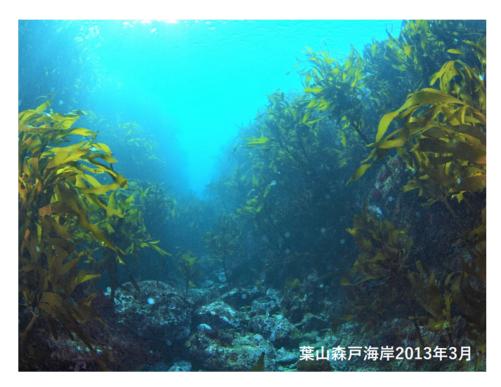


写真 9 相模湾・葉山森戸海岸付近の様子(2013年3月)



写真10 相模湾・葉山森戸海岸付近の様子(2013年3月)

写真10では中心にウニが確認できます。しかしながら、これらのウニは餌となる海藻がないので、中身は空っぽで、食べることはできません。このような磯焼けは全国の海でも広がっていますが、相模湾の磯焼けは特に顕著です。

相模湾の海底の変化はコンブなどの従来の海藻がなくなったことだけにとどまりません。従来の海藻にとって代わるようにピリヒバというサンゴモ科の藻が跋扈するようになりました。写真11に写っている海藻がピリヒバです。

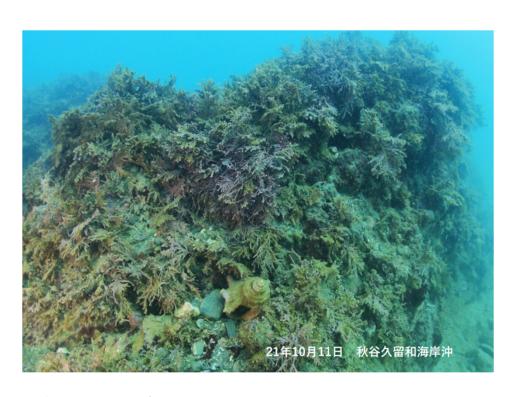


写真11 相模湾・秋谷久留和海岸沖の海底の様子(2021年10月)

ピリヒバは石灰を多量に含んでいるのでとても固く、ピリヒバが生えても、これがアワビ、サザエ、ウニなどの餌になることはありません。もはや相模湾ではサザエはいたとしても、俗にいうチビサザエ(稚貝)しかおらず、どれだけ待ってもチビサザエが大きく育つことはなく、産卵もできないため、絶滅を待つのみの状態なのです。アワビは今では全くとれなくなってしまいました。このままだ

と海はこの様に生物の棲めない海、つまり「海の砂漠化」という運命にあるのです。

また、ピリヒバは固くがっちりと根付くので、海が荒れても定着してしまいます。そうなると従来のコンブなどの海藻が根付く余地は全くなくなってしまい、 漁業関係者などからすれば「やられた、降参だ」というように手の施しようがありません。

#### 5 相模湾の環境の変化

三浦半島の相模湾側では秋から冬の時期にかけて南西からの風が吹いていました。海岸を歩いていても波の飛沫があたるくらいの強風です。地元ではこのような風を「大西」といって、この風が強い日には「大西が吹く」などと言っていました。しかしながら、「大西が吹く」日は明らかに減りましたし、吹いたとしても風はかなり弱まっています。これも海藻にとって大きな意味を持ちます。「大西」が吹けば当然波が立って、海が荒れるのですが、これによって海底の海藻、貝類、塵芥が取り除かれます。そうして、コンブなどの海藻が新たに根付くことにつながるのです。このような過程を「磯を洗う」などといいます。しかし、「磯を洗う」過程が発生しない為、コンブなどの海藻が根付く余地がなくなるのです。

ここ数年のワカメの不漁も「大西」が吹かなくなったことに起因すると思います。地元の漁師も「ワカメは西風が育てるというのに、こう吹かなくなったらおしまいだ」と嘆いています。

また、風に加えて、相模湾の藻場の変化の原因は海水温の上昇によるところが大きいと考えています。従来は相模湾は冬になると12度まで海水温が低下していましたが、最近は下がっても14度までに下がりません。これは海藻にとって大きな意味を持ちます。海水温が12度まで下がると魚たちは冬眠状態になり、海藻にとっては絶好の繁殖の機会となるのですが、今の冬の海水温では魚たちが冬眠しませんので、海藻が繁殖しようにも食べられてしまうのです。現に、相模湾の海藻はアイゴという魚に食べられてしまっています。こうして、藻場は次第

に失われていき、ひいては藻場を中心にはぐくまれていた海洋生態系も失われて しまうのです。

サバやイワシといった今まではよく見られていた魚たちも最近ではめっきり 数を減らしています。

風は気温によって動くので、気温が上昇し、風が変わることで、海が冷えなくなるという悪循環になっているのだと思います。

# 6 台風被害の増大

「大西」は吹かなくなりましたが、最近の台風ではこれまでにないような強風が吹くようになりました。私の居住する葉山では、浜辺にある漁師の作業小屋が台風のためほとんど流されてしまっています。また写真12の様にもともと防潮堤の外側の海中にあった数十トンもあるテトラポットが台風の巨大化に伴い、防潮堤の上に乗り上げているものや内側にまで打ち上げられているものもあり、実に異様な光景になっています。「海が住宅地に迫って来ている」という実感は、私を含め海に近い地区に住む住人の誰もが体感している事です。



写真12 防潮堤に乗り上げたテトラポッド

2018年の台風で、風上側にアルミフェンスの留め金をつけていた家はほとんどすべての家でフェンスが飛んでしまいました。風向きに対して裏側にある家のフェンスは飛ばずに残っていました。近所では、屋根が飛び、月極めパーキングの複数の車が壊されましたし、私の家のフェンスも、風で飛ばされ、そのときに危うく隣家の700万円のボルボにぶつかるところでした。

## 7 私の被害

私は、従来のような素晴らしいサンゴや海を見せたいと思っていますが、海はかつての姿を失い、現状ではそれができません。また、私は、これ以上の温暖化を止め、地球環境の保全に向けて注力しなければいけないと強く感じています。そのため、従来のような形で、海中観光業に従事することはできません。

仮に、横須賀石炭火力発電所の操業が認められれば、より一層の海洋生態系の破壊が進み、従来のような素晴らしいサンゴや海を見せる、海中観光業ができない状態が続いてしまいます。私は、環境保全活動により注力しなければなりません。それが、横須賀石炭火力発電所の操業によって生じる私の被害です。

以上